

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 NPO法人 国際支援地球村

1. 事業名称 復興と共にすすめる日本語教育と多文化共生社会の体制整備事業

2. 事業の目的

被災地の住民の一人として、震災復興支援事業(ボランティア活動等)に参加し、日本語教室で習得した日本語を使って、地域住民と実践的なふれあいを通じてコミュニケーションの向上をはかり、多文化共生の体制整備を

3. 事業内容の概要

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 5月22日 13:00～ 16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	高須賀精一郎、木村正樹、澤邊裕子、梶原美佳	「復興と共にすすめる日本語教育と多文化共生社会の体制整備事業」開催について事業計画への取組方法、プログラム、受講生の募集方法など	防災意識をさらに高めるプログラムの検討取組1～4それぞれ特色ある学習者のために有意義な取組内容の検討
2	平成26年 3月18日 13:00～ 16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	高須賀精一郎、木村正樹、澤邊裕子、梶原美佳	「復興と共にすすめる日本語教育と多文化共生社会の体制整備事業」終了報告	被災地に住む定住外国人のための事業に成り得たか、事業終了時、参加者のアンケートをもとに検討。今後の支援の在り方を検討。



5. 取組についての報告

○取組1: 災害ボランティアと地域イベントの参加と企画

(1) 体制整備に向けた取組の目標

学習者が自ら能動的に地域社会に溶け込み、習得した日本語を生きた日本語に置き換えてゆく。異文化の違いを地域社会と学習者が相互に受け入れ、協力体制を構築する。

(2) 取組内容

○震災被災者への支援ボランティア活動・・・仮設住宅住民で企画される各種イベントへの学習者のボランティア活動

(仮設住宅の地域住民と一緒に郷土料理や各国の料理教室と交流会に参加。調理、配膳、片づけ等のボランティア活動を行う。料理を通して地域住民とコミュニケーションをはかり、地域の風習や文化の学習と方言訛りなど日本語学習も実施。

(3) 対象者 日本語教室学習者、イベント参加者(地域住民)

(4) 参加者の総数 65人

(出身・国籍別内訳 中国8人、韓国8人、アメリカ3人、インドネシア1人 日本45人)

(5) 開催時間数(回数) 20時間 (全 9回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月3日 10:00～12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	9人	中国(3人)、韓国(4人)、アメリカ(2人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	現在の地域の復興状況やボランティア活動の状況を把握、自分たちも地域社会にイベントを通して参加しよう。自分が今できるボランティア活動とは。	日野美根子(指導者)	なし
2	平成25年9月10日 10:00～12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(3人)、韓国(4人)、アメリカ(2人)、インドネシア(1人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	防災に役立つ学習(市報より地域の防災の状況、様子を把握、防災語彙の学習)、地域のことばの学習	日野美根子(指導者)	なし
3	平成25年9月17日 10:00～12:00	2時間	東松島仮設住宅集会所	16人	中国(4人)、韓国(3人)、アメリカ(2人)、日本人(7人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	ボランティア活動参加のための現場打合せ。仮設集会所にて会長および役員の方々と顔合わせ、あいさつ等。震災時の状況など話しを伺い地域住民とのコミュニケーション活動実施	日野美根子(指導者)	なし
4	平成25年9月24日 10:00～12:00	2時間	東松島仮設住宅集会所	17人	中国(4人)、韓国(4人)、アメリカ(2人)、日本人(7人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	ボランティア活動参加のための現場打合せ。仮設集会所にて会長および役員の方々とコミュニケーション活動実施。交流会当日の料理、企画の打ち合わせ。	日野美根子(指導者)	なし
5	平成25年10月1日 10:00	2時間	ハヨンコリア会議室	9人	中国(4人)、韓国(4人)、アメリカ(1人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	防災に役立つ学習(市報より地域の防災の状況、様子を把握、防災語彙の学習)、地域のことばの学習	日野美根子(指導者)	なし
6	平成25年10月8日 10:00～12:00	2時間	東松島仮設住宅集会所	16人	中国(4人)、韓国(4人)、アメリカ(1人)、日本人(7人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	ボランティア活動参加のための現場打合せ。仮設集会所にて会長および役員の方々とコミュニケーション活動実施。交流会当日の料理の打ち合わせ。	日野美根子(指導者)	なし
7	平成25年10月15日 10:00～12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	11人	中国(5人)、韓国(4人)、アメリカ(2人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	仮設集会所で打合せした際の地域の方との交流の中でわからなかった語彙をメモしていた分の説明や返事返答、コミュニケーションの取り方を学習	日野美根子(指導者)	なし
8	平成25年10月22日 10:00～12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	9人	中国(3人)、韓国(5人)、アメリカ(1人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	イベントに参加する際のコミュニケーションの学習(表現、マナー)、調理する際の衛生面のマナー学習。	日野美根子(指導者)	なし
9	平成25年11月19日 10:00～14:00	4時間	東松島仮設集会所	56人	中国(5人)、韓国(5人)、アメリカ(1人)、日本人(45人)	地域社会にイベントを通してボランティア活動しながら参加しよう	災害ボランティアと地域イベントの参加と企画交流会実施。各国の料理を地域住民と一緒に作りながらコミュニケーション活動実施。災害ボランティアの心の復興支援を実施	日野美根子(指導者)	なし

(7) 参加者の募集方法

取組2防災日本語教室受講者に参加の呼びかけ、口コミ、東松島仮設住宅回覧板、掲示板にて告知

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

①授業のテーマ

《イベントに参加する際のコミュニケーションの学習(表現、マナー)調理する際の衛生面マナーの学習》

・実施日 10月22日(火)10:00～12:00

11月19日イベント参加時の地域住民とのコミュニケーションの取り方、マナー(調理時、交流会時)の学習を実施調理でのマナー・・・調理活動を実施するにあたり、基本的な衛生面のマナー(髪、爪、服装はどうしたほうがよいかな)を話し合い。いろいろな意見が出たが、調理中の鍋の近くや、食べ物の近くにいたときはマスク着用や、大きい声を出さない等決定。調理方法など皆ベテランであるが、意思統一を計る上で、調理の仕方を学習。各国の料理の責任者を決め地域住民の一員としての役割、意識づけを行った。

交流会でのマナー・・・地域住民は被災者であるため、どんな配慮が必要か、気を付けなければならない点を話し合い、自分たちのできることは被災者の方に「笑顔になってもらおう」を目標とし明るく元気を届けることに決定。

②授業のテーマ《災害ボランティアと地域イベントの参加と企画交流会実施》

実施日 11月19日(火)10:00～14:00

地域イベントへの参加(仮設住宅集会所イベント・世界料理教室と交流会)

世界の料理(日本料理、韓国料理、中国料理等)を外国人と地域住民が一緒になって調理し、交流会を実施。

学習者は、日本語学習の実践の場として地域の方と交流しながら日本語でコミュニケーションを取る楽しさを実感。日本語能力に自信を持ち、またボランティアがしたいという声があり地域住民の一員として自信をつけた。

自治会長からは、顔見知りになったことで地域住民も声をかけやすくなった。次にまた災害が起きたときは、臆することなく、「一緒におにぎりもらいに行きましょう」などと声をかけやすくなり、列に一緒に並んだり協力しあえる関係ができた。顔見知りになる重要性を学習者と地域住民に話していただいた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本語学習の実践の場として地域住民の方々との交流、各国の料理を交流しながら調理することで異文化の違いなどを相互に受け入れ楽しんでコミュニケーション活動を実施できた。

顔見知りになる重要性を実感でき、今後、災害時に限らず日常生活においても協力体制を構築することができた。

(10) 改善点について

教室活動ではコミュニケーションの取り方、マナー等の学習を実施したがボランティア交流会1回の実施の結果、教室活動で学習した以外の問題(パーソナルスペースの取り方や、声のかけ方・学習者は普通に話していても、声の大きさ言い方できつい、こわいと受け取る方もいた)を発見。人と接することのできる実践の場をもっと数多く設ける取組活動に改善する必要があると思われる。

○取組2:日本語教室(防災日本語教室)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日常生活に必要な日本語学習はもとより、地域社会の一員としての役割を果たせる日本語を習得し、地域住民と対等な関係を築くためのコミュニケーション能力向上を目指す。
昨年度に引き続き、被災地での暮らしの情報提供および一昨年経験した東日本大震災を教訓に防災意識を高め自らの生命財産を守るノウハウを学習する。

(2) 取組内容

- 日常生活に必要な日本語学習
- 地域文化、習慣、ルールを理解する日本語学習
- 地域の言葉、方言の学習
- 昨年度に引き続き、災害に対応できる日本語学習

(3) 対象者 石巻市および周辺地域定住外国人

(4) 参加者の総数 26人

(出身・国籍別内訳 中国9人、韓国11人、アメリカ5人、ペルー1人)

(5) 開催時間数(回数) 80時間 (全 40回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 6月7日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	12人	中国(5人)、 韓国(5人) アメリカ(2人)	自己紹介と日常生活に役立つ日本語、防災知識を身につける学習	開講式と自己紹介。各取組の学習内容の説明および学習スケジュールを案内。日常生活に必要なことばの学習	日野美根子	鈴木舞子
2	平成25年 6月11日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(4人)、 韓国(4人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	※屋上に避難してください等災害時に耳にする言葉の学習。把握しているか確認。日常生活に必要なことばの学習、丁寧に頼む、依頼の学習	日野美根子	鈴木舞子
3	平成25年 6月14日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(4人)、 韓国(4人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(方言)、文法(おかげで、せいで、うちに)	日野美根子	鈴木舞子
4	平成25年 6月21日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	9人	中国(3人)、 韓国(4人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習および日本の文化習慣を知る(箸のマナー)および文法(と言っても他)	日野美根子	鈴木舞子
5	平成25年 6月25日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	8人	中国(3人)、 韓国(4人) アメリカ(1人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(知っていいそうで知らないことば、湯気、炎、四角い等)防災知識と被災地の状況、情報提供	日野美根子	鈴木舞子
6	平成25年 6月28日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(4人)、 韓国(4人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、知っていいそうで知らなかったことばの学習(削る、崩すの違い等)、文法の学習。市報より被災地の復興進行状況のお知らせ。	日野美根子	鈴木舞子
7	平成25年 7月5日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	12人	中国(4人)、 韓国(6人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(学習者の日常の会話の疑問質問に一緒に考える)ように、ためのの違い、使い分け等。	日野美根子	鈴木舞子
8	平成25年 7月9日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	8人	中国(3人)、 韓国(3人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	地域の災害対策、復興状況等の情報提供。市報や新聞をピックアップし	日野美根子	鈴木舞子
9	平成25年 7月12日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(4人)、 韓国(5人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(教室のマナー等)、語彙、カタカナ学習	日野美根子	鈴木舞子
10	平成25年 7月19日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	9人	中国(4人)、 韓国(3人) アメリカ(2人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(川開き祭りのお知らせと祭りで良く見る、よく使うことば)語彙、カタカナの学習	日野美根子	鈴木舞子
11	平成25年 7月23日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	7人	中国(1人)、 韓国(5人) アメリカ(1人)	日常生活に役立つ日本語学習・防災知識を身につける日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文法、自動詞・他動詞)・防災知識を身につける日本語学習(被災地の復興状況と暮らしの情報提供、交通規制)	日野美根子	鈴木舞子

12	平成25年 7月26日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	7人	中国(2人)、 韓国(3人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文 法、自動詞・他動詞の使い方2)・防 災知識を身につける日本語学習(被 災地の復興状況と暮らしの情報提 供、祭りの際の交通規制と、漢字の 諸注意事項の読み方、迂回、進入 禁止、一般車両、花火大会会場等)	日野美根子	鈴木舞子
13	平成25年 8月2日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	8人	中国(2人)、 韓国(4人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習と日 本の文化マナー(お盆に親戚宅訪問 の際のマナー・座布団の座り方靴の 脱ぎ方、はだしにサンダルで訪問時 のマナー等)	日野美根子	鈴木舞子
14	平成25年 8月23日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	7人	中国(1人)、 韓国(3人) アメリカ(3 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文 法)・防災知識を身につける日本語 学習(被災地の復興状況と暮らしの 情報提供)、夏休み中の出来事、思 い出を発表等	日野美根子	鈴木舞子
15	平成25年 8月27日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(3人)、 韓国(5人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文 法)・防災知識を身につける日本語 学習(被災地の復興状況と暮らしの 情報提供)、丁寧な表現	日野美根子	鈴木舞子
16	平成25年 8月30日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	11人	中国(4人)、 韓国(4人) アメリカ(3 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文 法)漢字、重要熟語の学習、丁寧な 表現、学習者不得意小さいつ、小 さいよ、点々、ん、う、の有無等読み の学習	日野美根子	鈴木舞子
17	平成25年 9月6日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(3人)、 韓国(4人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文 法)漢字、重要熟語の学習の2、学習 者不得意の小さいつ、小さいよ、 点々、ん、う、の有無等読みの徹底 学習	日野美根子	鈴木舞子
18	平成25年 9月20日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(3人)、 韓国(5人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、日 本の文化習慣。十五夜について(お 月見、だんご、さつまいも、栗、す きを供える風習文化を学習)、漢字	日野美根子	鈴木舞子
19	平成25年 9月27日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(3人)、 韓国(5人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(文 法、語彙)・楽天優勝についての話 題でテレビ、ニュースを見て知らな かった語彙の学習。台風20号の話 題防災学習。	日野美根子	鈴木舞子
20	平成25年 10月4日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(2人)、 韓国(5人) アメリカ(3 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、日 本の文化風習・紅葉シーズン到来 のため紅葉スポットと行き方など学 習。文法(使役形)	日野美根子	鈴木舞子
21	平成25年 10月18日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(2人)、 韓国(6人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(日 本語の親疎、内外の関係を説明、敬 語の学習、地域の言葉)	日野美根子	鈴木舞子
22	平成25年 10月25日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(4人)、 韓国(4人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(生 活で頻繁に耳にする動詞ゆすぐ、す すぐ等ははっきりわからない学習者 が多いため、またイ形ナ形学習)	日野美根子	鈴木舞子
23	平成25年 11月1日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	11人	中国(3人)、 韓国(6人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(生 活で頻繁に耳にする動詞ゆすぐ、 ゆすぐ等ははっきりわからない学 習者が多いため、またイ形ナ形学 習)	日野美根子	鈴木舞子
24	平成25年 11月8日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(1人)、 韓国(7人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習(お かげで、せいで)カタカナ語。紅葉時 期によく聞く、ひらひら、はらはら、風 がそよそよ等季節で使うことばの 学習	日野美根子	鈴木舞子
25	平成25年 11月15日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(3人)、 韓国(4人) アメリカ(2 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地暮らしに役立つ情報(市報を参 考)、文法受け身、使役形を日常生 活でよく使う表現で学習	日野美根子	鈴木舞子
26	平成25年 11月22日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(2人)、 韓国(6人) アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供(県だより 、市報から)日本文化マナー(地域 住民との交流会での配膳マナーの 復習等語彙学習)	日野美根子	鈴木舞子
27	平成25年 11月29日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(4人)、 韓国(5人) アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、短文を 読もう(声に出して語彙、表現に注 意しながら短文を読んで理解する)	日野美根子	鈴木舞子
28	平成25年 12月3日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(2人)、 韓国(6人) アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、年 末に向け年賀状の書き方の学習(基 本的なあいさつ文を書く、はがきの 表住所の記入方法など)	日野美根子	鈴木舞子

29	平成25年 12月6日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(2人)、 韓国(6人)、 アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供(沿岸部 や市内でよく見かける看板の漢字の 読みと意味を理解する)	日野美根子	鈴木舞子
30	平成25年 12月10日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	8人	中国(3人)、 韓国(4人)、 アメリカ(1人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、これか らの時期水道凍結の恐れがあるの で水抜き栓を正しく操作方法とこと ばの学習。蛇口他	日野美根子	鈴木舞子
31	平成25年 12月13日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(2人)、 韓国(6人)、 アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、市報よ り被災地の状況、新聞を読む。	日野美根子	鈴木舞子
32	平成25年 12月20日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	11人	中国(2人)、 韓国(8人)、 アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、年賀状 を書こう(あいさつ文、表現の学習)、 年末年始の過ごし方、訪問時のマ ナー他	日野美根子	鈴木舞子
33	平成26年 1月10日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	7人	中国(2人)、 韓国(3人)、 アメリカ(2人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、新年の 過ごし、文化の違いによるマナー、 ルールについて疑問質問。今年の 抱負を発表	日野美根子	鈴木舞子
34	平成26年 1月17日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	8人	中国(2人)、 韓国(5人)、 アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、学習者 が知っているようで知らないオノマト ペの学習(ぶらぶら、がたがた、グラ グラ、うろうろ他)	日野美根子	鈴木舞子
35	平成26年 1月24日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(3人)、 韓国(6人)、 アメリカ(1人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供、学習者 が知っているようで知らない文法(可 能形他)の学習。	日野美根子	鈴木舞子
36	平成26年 1月31日 10:00～ 12:03	2時 間	ハヨンコリア会 議室	11人	中国(4人)、 韓国(6人)、 アメリカ(1人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供。節分 について、また韓国中国の旧正月の 過ごし方、新年のあいさつなど表 現。文化の学習	日野美根子	鈴木舞子
37	平成26年 2月7日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(2人)、 韓国(7人)、 アメリカ(1人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被災地での暮 らしの情報提供、カレンダーの祝日の読み方など 学習。助詞、比較の形の学習。～より～のほうが ～等	日野美根子	鈴木舞子
38	平成26年 2月14日 10:00～ 12:01	2時 間	ハヨンコリア会 議室	11人	中国(3人)、 韓国(7人)、 アメリカ(1 人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供。大雪が 降り除雪等で地域住民とのコミュニ ケーションを取った人たちが多く、そ の際の会話の質問から語彙表現の 学習を実施。溶ける溶かす雪かき道 具除雪	日野美根子	鈴木舞子
39	平成26年 2月21日 10:00～ 12:02	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(2人)、 韓国(7人)、 ペルー(1人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供。オリン ピック開催中にあたり各国の日本 での漢字表記等学習、テレビで放送 を見た際のことばの学習を実施	日野美根子	鈴木舞子
40	平成26年 2月28日 10:00～ 12:03	2時 間	ハヨンコリア会 議室	10人	中国(2人)、 韓国(7人)、 ペルー(1人)	日常生活に役立 つ日本語学習・防 災知識を身につけ る日本語学習	日常生活に必要なことばの学習、被 災地での暮らしの情報提供。最終日 にあたり日本語教室で学習してみ て生活にどのような変化があったか書 きと発表を実施。	日野美根子	鈴木舞子

(7) 参加者の募集方法

石巻市と連携し外国人に日本語教室案内を郵送、ラジオ石巻による多言語放送、口コミ

(8)特徴的な活動風景

①授業のテーマ

《災害時に耳にすることば、目にすることばの学習》

・実施日 6月11日(火)10:00~12:00

災害時、テレビ、ラジオ、防災無線、地域住民から耳にすることば、目にすることばの学習を実施。

災害時、情報伝達のことばは簡素化され、命令形や聞きなれない漢字のことばは外国人にとっては理解しにくい
ため、自らの命を守るために情報収集力を身につけることばの学習を行った。

例・屋上に避難してください・・・の屋上(おくじょう)とはどこ？避難はなに？

例・高台に避難してください・・・の高台(たかだい)とはどこ？避難はなに？

例・より高く、より遠くへ・・・の(より)とは？

津波発生、津波警報、津波警報解除、発令、緊急、ただちに・・・等のことばの読み方と意味の学習。

日常生活で目にする街中の注意看板のことばの読みと意味の学習(フェンス 寄りかかるな、冠水、危険等)

②授業のテーマ

《日常生活に必要なことばの学習、被災地での暮らしの情報提供、学習者が知っているようで知らない文法(可能形)の学習》

・実施日 1月24日(金) 10:00~12:00

日常生活に必要なことばの学習

寒さ厳しくなる時期水道凍結の恐れがあるため、水抜き栓の正しい操作方法とことばの学習。

例・水抜き栓、蛇口、排水管、止水栓、水道メーター、メーターボックス

学習者がなかなか使えない、知っているようで知らない文法(可能形)の学習

可能形の作り方の学習後、それぞれ自分の言いたいことを可能形を用いて発表。

例・水道が凍ると・・・水が使えない、お風呂に入れない、ごはんが食べられない等



(9)取組の目標と達成状況・成果

地域社会の一員としての役割を果たせる日本語の学習および地域住民と対等な関係を築くためのコミュニケーション能力向上を目指す目標においては、日本の年中行事や地域の祭りイベント、文化、習慣の話題を取り入れながら日本の文化、そこで使う適切な表現の学習、人との接し方、マナーを学習。日常生活に必要な日本語学習はもとより地域で暮らすために役に立つ表現の学習を実施し、この点において目標達成。

防災に関する日本語学習に関しても昨年に引き続き学習を実施。復旧復興と共に暮らしも変化する状況に対応できる防災日本語の学習を実施、新しい知識を身につけ防災意識が薄れる危険を防止する成果があった。

(10)改善点

地域住民との対等な関係を築くためのコミュニケーション能力を養うためには、教室活動だけでは限界があり、この点において地域住民の協力を得る方法を検討したい。

復旧復興と共に日常生活で目にする耳にする日本語も変化する状況にあり、外国人が情報を正しく得られるよう、今後も定期的に学習者を集め被災地での暮らしに役立つ日本語学習と防災知識が薄れることのないように防災日本語学習に関する学習を実施したい。

〇取組名：シンポジウムの開催

(1)体制整備に向けた取組の目標

学習者が自分のことばでシンポジウムで発表することにより、他の学習者の成果発表を見て聞いてを発表する機会を通じて、自信と更なる学習意欲を持たせ、次のステップに進む道筋を指導する。

(2)取組内容

学習者が約一年間日本語教室で習得した成果を発表する機会を通じて、自信と更なる学習意欲をもたせ、みずからが地域住民の一人となるよう積極的に推進させる。

①日本語教室の学習、ボランティア活動等に参加した体験談を発表してもらう。

②カウンセリングによる悩み解決などの体験談を発表してもらう。

(3)対象者 地域住民、日本語教室の学習者

(5)開催時間回数(回数) 12時間(全6回) 中国7名 韓国7名 中国5名 ペルー1名 日本14名)

(6)取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名
1	平成26年 1月21日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	9人	中国(3人)、 韓国(6人) アメリカ(0人)	日本語学習実践 の場で～自分の 意見を相手に上 手に伝えよう	シンポジウム開催にあたり、開催の趣旨を把握。人前で話すことの心構え等メンタル学習、日本語学習の実践の場として日本語で話すことの心構え等。各人のレベルを考慮したシンポジウムを実施することに。	1名	日野美根子
2	平成26年 1月28日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(4人)、 韓国(6人) アメリカ(0人)	日本語学習実践 の場で～自分の 意見を相手に上 手に伝えよう	日本語学習一年前の自分と現在の自分の学習の成果について自分なりの意見を出してもらう。表現、語彙のチェックと学習。自分の伝えたい内容を新しい表現で学習	1名	日野美根子
3	平成26年 2月18日 10:00～ 12:00	2時間	ハヨンコリア会議室	10人	中国(3人)、 韓国(7人) アメリカ(0人)	日本語学習実践 の場で～自分の 意見を相手に上 手に伝えよう	防災についての意見を出してもらう。一年前あるいは震災直後の自分の防災意識と、防災日本語教室で学習後の自分の変化、意見を出してもらう。表現と語彙のチェックと学習。自分の伝えたい内容を新しい表現で学習	1名	日野美根子

4	平成26年 2月25日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(2人)、 韓国(7人) アメリカ(0人)	日本語学習実践 の場で～自分の 意見を相手に上 手に伝えよう	日本語サロンについて参加した際の 意見を出してもらおう。サロンに参加し てみて一年前の自分と現在の自分の 心境の変化の有無や成果、自分 なりの意見を出してもらい語彙や表 現のチェックと学習を実施	1名	日野美根子
5	平成26年 3月4日 10:00～ 12:00	2時 間	ハヨンコリア会 議室	9人	中国(2人)、 韓国(7人) アメリカ(0人)	日本語学習実践 の場で～自分の 意見を相手に上 手に伝えよう	取組124を通して自分の意見を出し てもらおう。新しい語彙、表現を学習。 相手に自分の意見を上手に伝える 自信を持たせる。	1名	日野美根子
6	平成26年 3月8日 10:00 ～12:00	2時 間	多文化共生セ ンター	11人	中国(3人)、 韓国(7人) ペルー(1人)	日本語学習実践 の場で～自分の 意見を相手に上 手に伝えよう	シンポジウム開催。「復興と共にす める日本語教育と多文化共生社 会の体制整備事業」の各取組に参 加した感想や意見交換等実施	1名	李仁子

(7)参加者の募集方法

日本語教室学習者、ロコミ、石巻市その他連携団体訪問し参加呼び掛け

(8)特徴的な活動風景

《シンポジウム開催》

実施日 3月8日(土)10:00～12:00

東北大学大学院教育学研究科李准教授による講演会を実施。国際結婚女性に関する人類学研究から、被災地での家庭関係、家庭問題をテーマに講演会を実施。その後約1年間様々な取組に参加した学習者のうち発表者4名とこれらの問題についてディスカッションや、4つの事業を通して自分の変化や成長を発表を実施。



(9)取組の目標の達成状況・成果

シンポジウム開催を通して地域住民や各連携団体に文化庁の本事業の取組の理解と情報発信する成果があった。発表者は、約一年間日本語教室で習得した成果を発表する機会を通じて、人の前で日本語で話す自信とさらなる学習意欲と持たせることができた。発表者以外の日本語学習者も、刺激と学習意欲が増し、地域住民のひとりとして積極的に社会に貢献したいと意識が高くなり、次のステップに進む道筋を指導する成果があった。

(10)改善点について

シンポジウム開催日が震災3年の様々な行事や学校卒業式等と重なり、参加者が参加しにくい状況であったため、開催日を念入りに検討すべき点があげられる。

取組4: 日本語交流サロン

(1)体制整備に向けた取り組みの目標

被災地の不安等心理的問題、家庭問題、子供の教育問題について話したり、学んだりすることのできるサロンを実施し、日本語での交流を通じ、日本語を学ぶと同時に不安を減らす。

(2)取組内容

○学習者が日本語で体験を語る活動を行い、カウンセリングの専門家を招き、語りで使用する言葉(こころの表現)の学習

○学習した言葉(こころの表現)を使用した交流の実施

○東北の文化、風土、気質の学習とそれに対応するための心構えの学習

(3)対象者

石巻市の定住外国人

(4)参加者の総数 13人

(出身・国籍別内訳:韓国8人、中国5人)

(5)開催時間 31時間(全10回)

(6)取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年6月20日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	11人	韓国(6人)、中国(5人)	オリエンテーション	オリエンテーション、趣旨等の説明、自己紹介をしながら他人に自分を紹介するに当たって必要な日本語の学習。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
2	平成25年7月18日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	9人	韓国(5人)、中国(4人)	日本の「家」1	日本の「家」に関する日本語で、東北地域で付き合い範囲の親族の呼称を中心に学習する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
3	平成25年8月3日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	8人	韓国(5人)、中国(3人)	日本の「家」2	日本の「家」に関する日本語で、葬式の流れ、作法等の中で使う日本語を中心に学習する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
4	平成25年8月22日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	8人	韓国(5人)、中国(3人)	日本の「家」3	日本の「家」に関する日本語で、法事、結婚式等の中で使う日本語を中心に学習する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
5	平成25年9月12日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	8人	韓国(5人)、中国(3人)	「心の状態説明」1	「心の状態説明」に関する日本語で、人間関係から生じる気持ちの表現を中心に学習する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
6	平成25年10月10日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	7人	韓国(5人)、中国(2人)	「心の状態説明」2	「心の状態説明」に関する日本語で、心理病理的な用語を中心に学習する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
7	平成25年11月7日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	9人	韓国(4人)、中国(5人)	「心の状態説明」3	「心の状態説明」に関する日本語で、前回学習した心理病理的な用語をうつ病の例を取り上げて、さらに理解を深める。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
8	平成25年12月19日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	9人	韓国(5人)、中国(4人)	文化の差1	受講生の自国の文化と日本の文化の差から生まれる葛藤を表現する日本語を中心に学習する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
9	平成25年1月11日 13:00～16:00	3時間	ハヨンコリア会議室	8人	韓国(5人)、中国(3人)	文化の差2	自国の文化と日本の文化の差が生み出す面白さや困難さを表現する日本語を学習しながら、それらの具体的な事例を取り上げる。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子
10	平成25年2月8日 13:00～17:00	4時間	ハヨンコリア会議室	7人	韓国(4人)、中国(3人)	発表会	授業全体を通して習得した日本語を駆使しながら、自己紹介や自国の文化と日本の文化の差、心の悩みなどを発表する。その後、交流会を行う。	李 仁子	鈴木 舞子

(7)参加者の募集方法

市役所から石巻市内の定住外国人の家庭にチラシを郵送

(8)特徴的な活動風景

第5回「心の状態説明」1

実施日：平成25年9月12日 13:00～16:00

概要：「心の状態説明」に関する日本語で人間関係から生じる気持ちの表現を中心に学習する。その後、交流会を行う。

本時の学習表現：胸が痛い、胸が苦しい、気～（気が滅入るなど）

講師が例を提示し、語彙の導入を行った。次に、本時の学習表現を講師が易しい日本語に置き換え説明した。その後、本時の学習表現を用いながら、自らの経験を語り合う日本語の交流会を行った。

第6回「心の状態説明」2

実施日：平成25年11月7日13:00～16:00

概要：「心の状態説明」に関する日本語で、心理病理的な用語を中心に学習する。その後、交流会を行う。

本時の学習表現：記憶力の低下・不眠症・食欲不振

本時の学習表現を使い、講師が導入として話をした。講師が易しい日本語に置き換え、また例を挙げながら説明した。最後に学習した表現を用いて、自らの体験を語り合う交流サロンを実施。



(9)取組の目標達成状況・成果

本取組の最後に、学習者から本取組に関する意見を求めた。

〈学習者の意見〉

- ・オノマトペの程度がわからなかったが、この取り組みにより理解できた。
- ・冠婚葬祭の礼儀作法がわかってよかった。
- ・まだまだ理解できていない気持ちに関する言葉が多いので、もっと勉強したい。
- ・自分の気持ちを相手に分かってもらえて、うれしかった。

日本語で自分の気持ちを伝えることができ、相手に理解されることで心理的不安が緩和された。

(10)改善点について

まだ母国語と同じようなレベルで日本語を用いて自分の心情を表現できないので、継続的な支援が必要である。

6.事業に対する評価について

(1)事業の目的

被災地の住民の一人として、震災復興支援事業(ボランティア活動等)に参加し、日本語教室で習得した日本語を使って地域住民と実践的なふれあいを通じてコミュニケーション能力を向上をはかり、多文化共生の体制整備を行う。

(2)事業目的の達成状況

すべての取組を通して外国人学習者が被災地の住民の一人としての意識と自覚を得る成果があった。防災意識を持続させるべく防災の知識習得学習に努め、また地域住民との交流を通し「心の復興」のボランティア活動を実施し、社会に貢献できる自信を身に付けたことは大きな成果である。

すべての取組を通して、多文化共生の体制整備の基盤づくりのスタート地点となる事業ができた。

(3)地域における事業の効果、成果

仮設住宅集会所において、震災復興支援ボランティア活動を実施。地域住民との交流会では、外国人ならではの明るく楽しい雰囲気被災者の日常の不安や震災ストレスを和らげ、「心の復興」支援の成果があった。また、交流会後には、外国人が買い物先で地域住民から声をかけられることもあり、自分が地域の一員であることを実感、顔見知りになる重要性和多文化共生社会推進の効果があつた。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

4つの取組を通して、地域の方と顔見知りになる重要性和被災地で暮らす外国人として地域に社会貢献する喜びを感じ始めた段階にあり、復興と共に多文化共生社会の実現に向けてスタートしたばかりの状況。

ii 今後の課題

4つの取組を通して多文化共生の基盤作りのスタートを切ることができたが、継続するためには定期的に地域住民と共に活動できる機会を設ける必要がある。今回の事業で外国人が得た自信や防災知識を忘れないようにするために継続支援が必要

iii 今後の活動予定

多文化共生社会の実現を目指し、地域住民と外国人が共に心の復興を進める活動の実施。地域社会の一員として社会貢献できる人材育成の支援活動を実施。